

XOOPS の手動インストールの方法

■ XOOPS のダウンロード

XOOPS の公式サイトから「XOOPS Cube Legacy 2.1.8a」をダウンロードします。
下記の URL にアクセスしてください。

<http://xoopscube.jp/package/1?view=releases>

中ほどにあるバージョン「2.1.8a」の「ダウンロード」をクリックします。

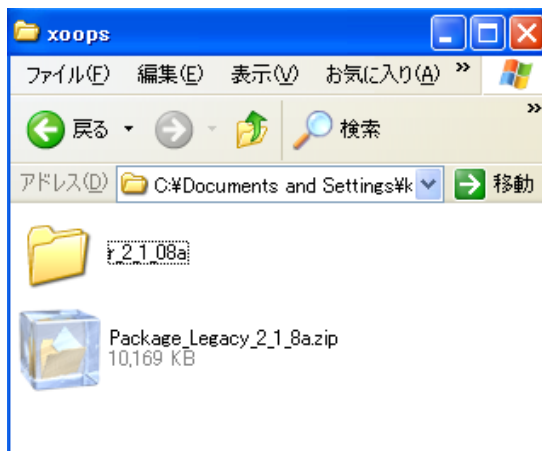
| バージョン | リリース日 | 関連リンク | 安定度 |
|----------------------------|-------------|--|-------|
| 2.2.0 | 2011年4月23日 | ダウンロード | 正式版 |
| 2.1.8a | 2010年11月14日 | ダウンロード リリースノート | 正式版 |
| 2.2.alpha1 | 2010年3月27日 | ダウンロード リリースノート | アルファ版 |
| 2.1.8 | 2010年3月27日 | ダウンロード リリースノート | 正式版 |

表示されたページの中ほどにある「Package_Legacy_2_1_8a.zip」をダウンロードします。

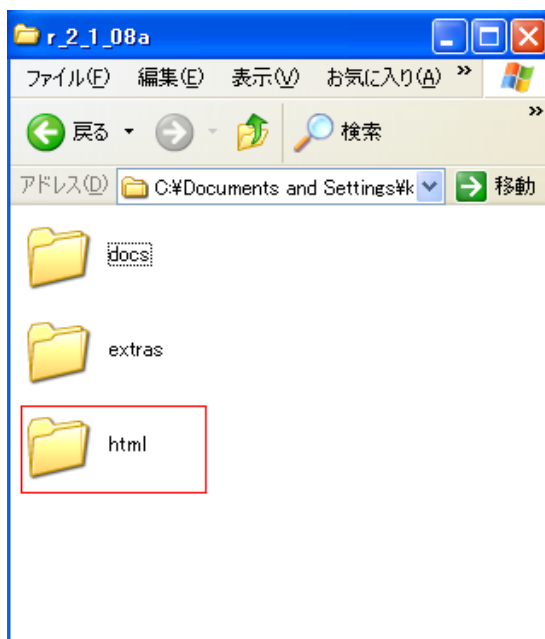
Home / legacy / legacy 2.1.8

| Name | Modified | Size |
|---|------------|----------|
| ↑ Parent folder | | |
| Package_Legacy_2_1_8a.zip | 2010-11-13 | 10.4 MB |
| Package_Legacy_patch_20101113.zip | 2010-11-13 | 200.8 kB |
| Package_Legacy_2_1_8.zip | 2010-03-27 | 10.5 MB |

ダウンロードした「Package_Legacy_2_1_8a.zip」を解凍（展開）します。



解凍（展開）してできた「r2_1_08a」フォルダを表示してください。
フォルダの中には、「docs」、「extras」、「html」の3つのフォルダがあります。
インストールに必要なのは「html フォルダ」のみとなります。

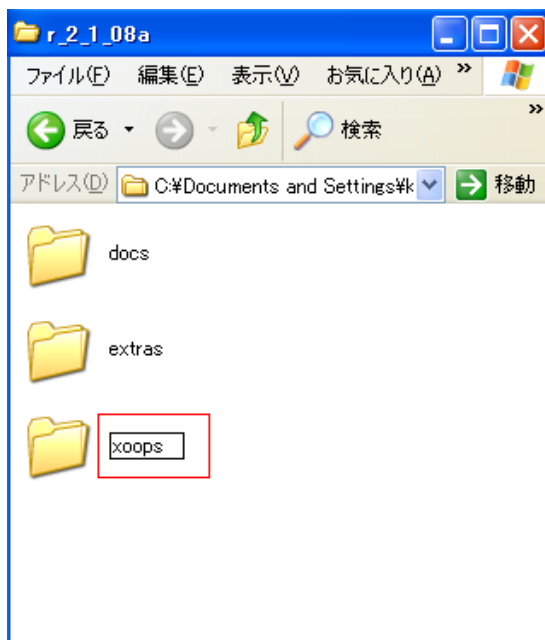


「html」フォルダの名前を変更します。

フォルダを右クリックしてメニューを表示し、「名前の変更」をクリックしてください。



フォルダの名前を「xoops」に変更してください。



■ XOOPS のアップロード

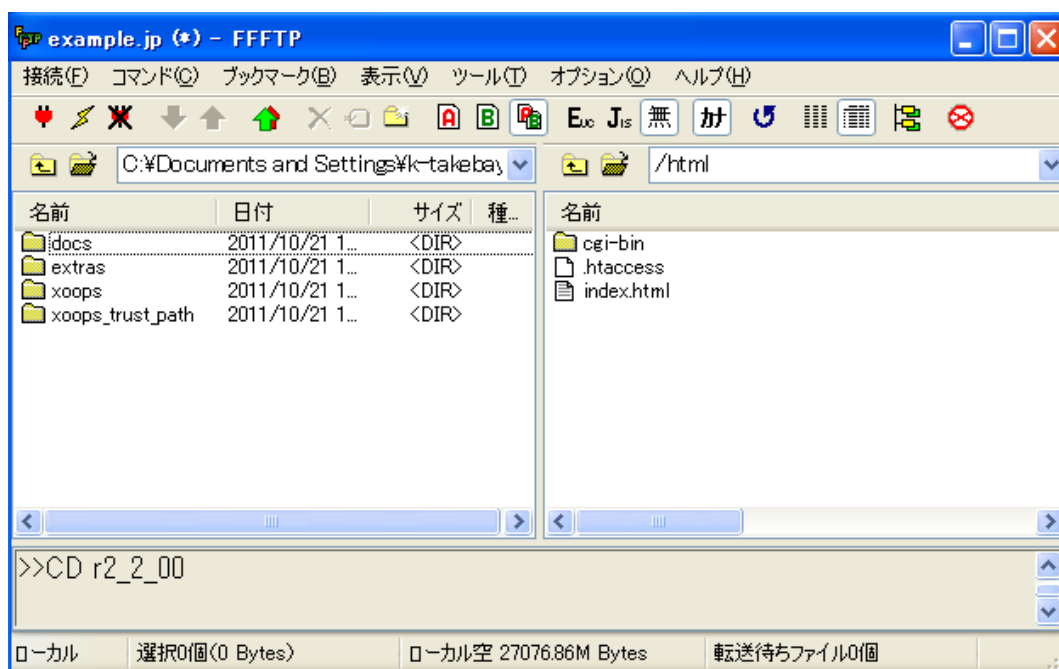
FTP ソフトでサーバーに接続します。

「接続」をクリックしてください。



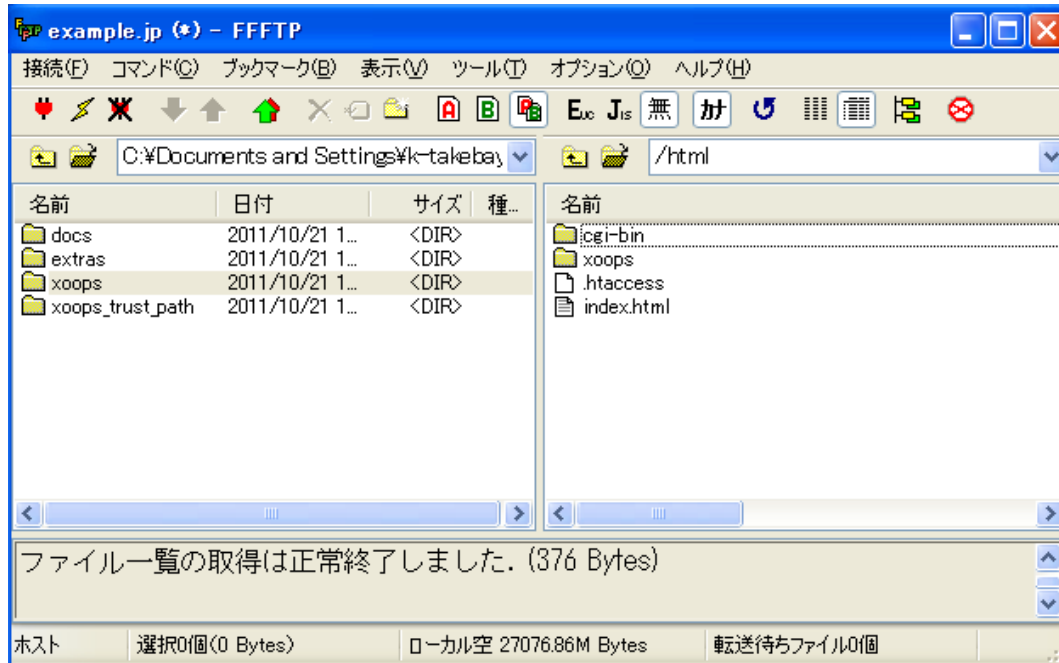
※FTP の設定については「CMS の事前設定」を参照ください。

FTP ソフトの左部に解凍（展開）してできた「r2_1_08a」フォルダを表示し、右部に「/html」ディレクトリを表示します。

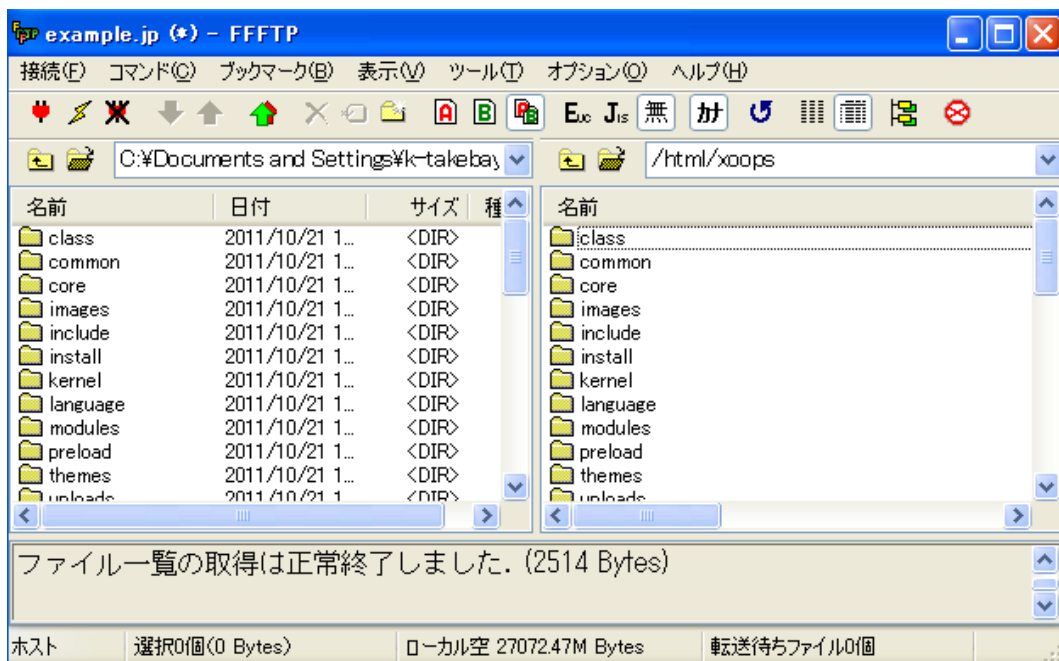


xoops フォルダをサーバーにアップロードします。

※2400 以上のファイルをアップロードしますので時間が長くなる場合があります。



アップロードが完了したら、左部に「xoops」フォルダ、右部に「xoops」ディレクトリを表示しておいてください。



■ 表示の確認・インストール

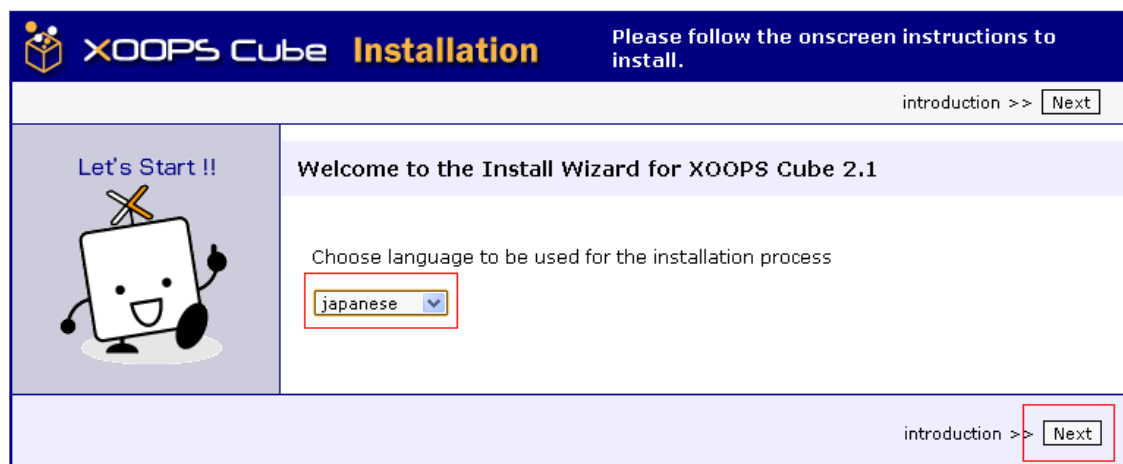
アップロードが完了したらさっそく、ブラウザでアクセスしてインストールウィザードを開きます。

「[http://あなたのURL\(ドメイン名\)/xoops/](http://あなたのURL(ドメイン名)/xoops/)」にアクセスしてください。

下図のような画面が表示されます。



中ほどのプルダウンメニューから「japanese」を選んで「Next」をクリックしてください。



表示されたページ下部の「次へ」をクリックします。



必要なソフトウェア

- ウェブサーバ(**Apache**, IIS, Roxen, など)
- **PHP** 4.3.2以降
- データベースサーバ(**MySQL Database 3.23.XX**)

準備

- ウェブサーバ、PHP、データベースサーバを適切にセットアップする。
- XOOPS Cube Legacy用にデータベースを1つ準備する。
- 上記のデータベースにアクセスできる、データベースサーバのユーザアカウントを準備する。
- uploads/, cache/およびtemplates_c/ディレクトリと、mainfile.phpファイルをPHPから書込み可能にする。
- ブラウザのクッキーとJavaScriptをオンにする。

インストール

このウィザードに従ってください。

アクセス権のチェック >> 次へ

先頭にすべて緑色の信号が表示されていることを確認したら、「次へ」をクリックして進みます。

 **XOOPS Cube Installation**
画面上の指示に従って設定を行ってください

設定の入力 >> 次へ

Let's Start !!



ファイルのアクセス権のチェック

- ディレクトリuploads/は、書込可です。
- ディレクトリcache/は、書込可です。
- ディレクトリtemplates_c/は、書込可です。
- ファイルmainfile.phpは、書込可です。

アクセス権に問題はありません。

設定の入力 >> 次へ

■ データベースの設定

データベースの設定を行います。

事前に用意した自分のデータベース設定を参考に

「データベースユーザー名」、「データベースパスワード」、「データベース名」を入力し、「データベースサーバーのホスト名」にポート番号「3306」を入力してください。

■ 事前に用意したデータベース設定

※CMSの事前設定をご参照ください

| | |
|---------|-------------|
| データベース名 | : g601025 |
| ユーザー名 | : g601025 |
| パスワード | : sABn2rxz |
| ホスト名 | : localhost |

データベース、およびパス・URLの設定

データベースサーバ
使用するデータベースサーバの種類を選択してください。

データベースサーバのホスト名
使用するデータベースサーバのホスト名を入力してください。
よく分からない場合は、「localhost」として、ほぼ問題はありません。

データベースユーザー名
上記データベースサーバにおけるユーザアカウント名を入力してください。

データベースパスワード
上記ユーザアカウントのパスワードを入力してください。

データベース名
使用するデータベース名を入力してください。
見つからない場合は、この名称でデータベースの作成を試みます。

テーブル接頭語
各テーブル名にこの接頭語を付加し、既存テーブルとの

※MySQLに接続するポートは「3306」と指定されていますので、必ず指定するようにしてください。

「次へ」をクリックします。

デフォルトは「いいえ」です。よく分からない場合は「いいえ」を選択してください。

XOOPS Cubeへのパス

XOOPS Cubeが設置されているディレクトリへのフルパスを入力してください。
末尾には「/」を付加しないでください。

XOOPS CubeへのURL

XOOPS CubeにアクセスするURLを入力してください。
末尾には「/」を付加しないでください。

確認 >>

設定内容の確認画面が表示されます。

内容に誤りがないことを確認して「次へ」をクリックします。

XOOPS Cube Installation 画面上の指示に従って設定を行ってください

<< 設定の再入力 設定の保存 >>

設定内容の確認

| | |
|-----------------|------------------------------|
| データベースサーバ | mysql |
| データベースサーバのホスト名 | localhost |
| データベースユーザ名 | g61025 |
| データベースパスワード | sABn2rxz |
| データベース名 | g61025 |
| テーブル接頭語 | ba9e9f |
| SALT | 61430605 |
| データベースへ持続的接続 | いいえ |
| XOOPS Cubeへのパス | /usr/home/g601025/html/xoops |
| XOOPS CubeへのURL | http://example.jp/xoops |

<< 設定の再入力 設定の保存 >>

先頭にすべて緑色の信号が表示されていれば成功です。
確認したら「次へ」ボタンをクリックして進みます。

XOOBS Cube Installation 画面上の指示に従って設定を行ってください

パス・URLのチェック >> **次へ**

設定の保存

- ファイル../mainfile.phpがファイル../mainfile.dist.phpで上書きされました。
- 定数XOOBS_ROOT_PATHが/usr/home/g601025/html/xoopsに設定されました。
- 定数XOOBS_URLがhttp://122.200.197.35/xoopsに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_TYPEがmysqlに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_PREFIXがba9e9fiに設定されました。
- 定数XOOBS_SALTが61430605iに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_HOSTがlocalhostに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_USERがg61025iに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_PASSがsAbn2rxziに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_NAMEがg61025iに設定されました。
- 定数XOOBS_DB_PCONNECTが0iに設定されました。
- 定数XOOBS_GROUP_ADMINが1iに設定されました。
- 定数XOOBS_GROUP_USERSが2iに設定されました。
- 定数XOOBS_GROUP_ANONYMOUSが3iに設定されました。

設定を、mainfile.phpへ書き込みました。

パス・URLのチェック >> **次へ**

先頭にすべて緑色の信号が表示されていることを確認してください。先頭に赤色の信号が表示された場合は、インストーラが検出したパスとURLが、設定されたものと異なっています。「データベース、およびパス・URLの設定」で設定した項目が正しいか確認してください。間違っていた場合は、インストールをはじめからやり直してください。
「次へ」をクリックして進みます。

XOOBS Cube Installation 画面上の指示に従って設定を行ってください

戻る << はじめからやり直す 再読込 データベース設定の確認 >> **次へ**

パス・URLのチェック

- 検知されたルートディレクトリのパスは、設定されたもの(XOOBS_ROOT_PATH)と一致しています。
- 設定されたURLは、正しい形式です。

| | |
|------------------------|------------------------------|
| XOOBS Cubeのディレクトリへのパス: | /usr/home/g601025/html/xoops |
| XOOBS CubeへのURL: | http://122.200.197.35/xoops |

上記設定が正しい場合は、インストールを続けてください。
間違っている場合は、はじめからやり直してください。
または、mainfile.phpを直接編集して、このページを再読み込みしてください。

戻る << はじめからやり直す 再読込 データベース設定の確認 >> **次へ**

データベース設定の確認画面が表示されます。
内容に誤りがないことを確認して「次へ」をクリックします。

XOOPS Cube Installation

画面上の指示に従って設定を行ってください

戻る << はじめからやり直す 再読込 データベースをチェック >> 次へ

Let's Start !!

データベース設定の確認

| | |
|----------------|-----------|
| データベースサーバのホスト名 | localhost |
| データベースユーザ名 | g61025 |
| データベース名 | g61025 |
| テーブル接頭語 | ba9e9f |

上記設定が正しい場合は、インストールを続けてください。
間違っている場合は、はじめからやり直してください。
または、mainfile.phpを直接編集して、このページを再読み込みしてください。

戻る << はじめからやり直す 再読込 データベースをチェック >> 次へ

先頭にすべて緑色の信号が表示されていることを確認してください。
先頭に赤色の信号が表示された場合、「データベース、およびパス・URL の設定」で入力したデータベースユーザー名・パスワードまたはデータベース名が間違っているか、PHP・データベースサーバの設定が間違っています。インストールをはじめからやり直してください。
「次へ」をクリックします。

XOOPS Cube Installation

画面上の指示に従って設定を行ってください

データベーステーブル作成 >> 次へ

Let's Start !!

データベースをチェック

- データベースサーバへ接続できます。
- データベースg61025は存在し、接続可能です。

データベースサーバへの接続に問題はありません。
下記のボタンをクリックすると、データベーステーブルを作成します。

データベーステーブル作成 >> 次へ

先頭にすべて緑色の信号が表示されていることを確認したら、「次へ」をクリックして進みます。

■ ba9e9f_configoptionテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_groupsテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_group_permissionテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_groups_users_linkテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_imageテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_imagebodyテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_imagecategoryテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_imgsetテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_imgset_tplset_linkテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_imgsetimgテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_modulesテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_newblocksテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_onlineテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_priv_msgsテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_ranksテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_sessionテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_smilesテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_tplsetテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_tplfileテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_tplsourceテーブルを作成しました。
■ ba9e9f_usersテーブルを作成しました。

データベーステーブルが作成されました。

サイト管理者についての設定 >

管理者ユーザを作成するためのフォームが表示されます。

インストールが完了したら、この管理者ユーザ名でログインしますので、ユーザ名とパスワードは忘れないようにしてください。

また、「管理者ユーザ名」「パスワード」とも、半角英数字とし、スペースを含めないことを推奨します。

入力したら「次へ」をクリックして進みます。

XOOBS Cube Installation 画面上の指示に従って設定を行ってください

データの生成 >> **次へ**

Let's Start !!

サイト管理者についての設定

サイト管理者のユーザ名、ユーザパスワード、およびメールアドレスを入力してください。

管理者ユーザ名

管理者メールアドレス

管理者パスワード

管理者パスワード(再入力)

データの生成 >> **次へ**

先頭にすべて緑色の信号が表示されていることを確認したら、「次へ」をクリックして進みます。

データの生成

- 1個のデータがデータベースba9e9f_bannerclientにINSERTされました。
- 4個のデータがデータベースba9e9f_configcategoryにINSERTされました。
- 17個のデータがデータベースba9e9f_configoptionにINSERTされました。
- 1個のデータがデータベースba9e9f_imgsetにINSERTされました。
- 1個のデータがデータベースba9e9f_imgset_tplset_linkにINSERTされました。
- 7個のデータがデータベースba9e9f_rankslにINSERTされました。
- 17個のデータがデータベースba9e9f_smileslにINSERTされました。
- 3個のデータがデータベースba9e9f_groupslにINSERTされました。
- 1個のデータがデータベースba9e9f_bannerにINSERTされました。
- 1個のデータがデータベースba9e9f_tplsetにINSERTされました。
- 44個のデータがデータベースba9e9f_configにINSERTされました。
- 1個のデータがデータベースba9e9f_userslにINSERTされました。
- 2個のデータがデータベースba9e9f_groups_users_linkにINSERTされました。
- 定数XOOBS_GROUP_ADMINが11に設定されました。
- 定数XOOBS_GROUP_USERSが21に設定されました。
- 定数XOOBS_GROUP_ANONYMOUSが31に設定されました。

完了 >> **次へ**

インストール第1ステップの完了です。
 続いて、第2ステップへ進みます。「次へ」をクリックしてください。

インストール第1ステップ完了

インストールの第2ステップについて

xoops Cubeのインストールの第1ステップが完了しました。xoops Cubeの必須モジュールの導入を完了するためには、第2ステップを実行する必要があります。

「次へ」をクリックして、表示されるログイン画面に第1ステップで設定した管理者のユーザIDでログインして下さい。

ログインに成功すると、導入可能なモジュールの一覧が表示されます。一覧を確認し、選択導入可能なモジュールが存在する場合には、インストールするモジュールにチェックを行った後に「インストール」ボタンをクリックして下さい。

選択されたモジュールが自動的に導入された後に、xoops Cubeのサイトに管理者権限でログインした状態のトップ画面が表示されます

xoops Cubeの使い方について

[未記述]

サポート

[xoops Cube Project](#)サイト(英語)か、[xoops Cube日本語](#)サイトに訪問ください。

インストール第2ステップ >> 次へ

「メンテナンスです」という画面が表示されます。
 先ほど設定した「ユーザ名」と「パスワード」を入力し、「ログイン」をクリックします。

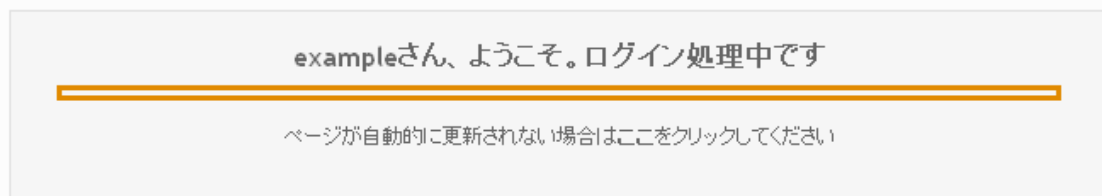
このサイトはただいまメンテナンスです。後程お越しください。

ログイン

ユーザ名:

パスワード:

「ログイン処理中」の画面が表示された後に、必要なモジュールをインストールする画面が表示されます。



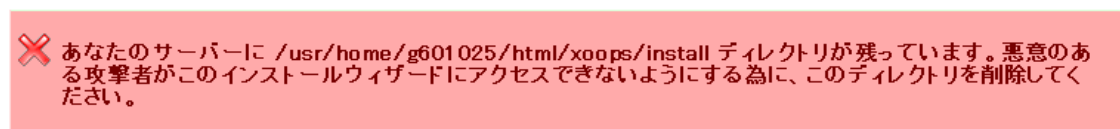
「インストール」をクリックしてください。

以下のモジュールが導入されていません

| | Module | Status |
|-------------------------------------|--------------|---------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | legacy | 必須(未導入) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | user | 必須(未導入) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | legacyRender | 必須(未導入) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | stdCache | 必須(未導入) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | pm | 導入推奨 |
| | | <input type="button" value="インストール"/> |

これでインストールは完了です。

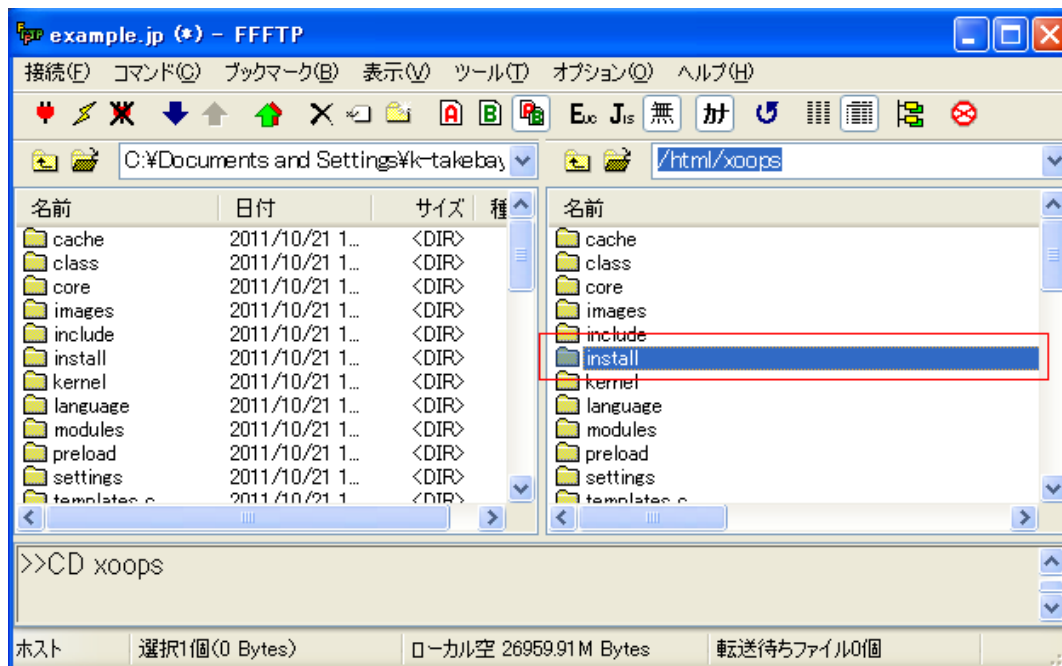
最後に表示されている警告通り、「install」ディレクトリを削除しましょう。



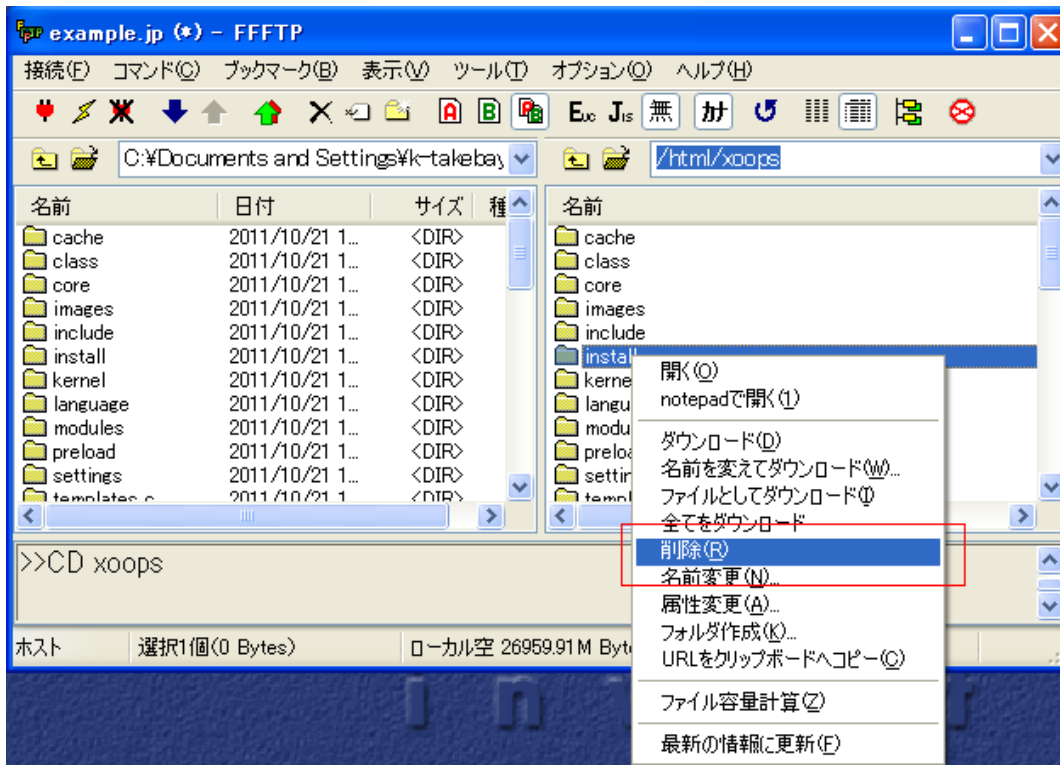
FTP ソフトでサーバーに接続します。
「接続」をクリックしてください。



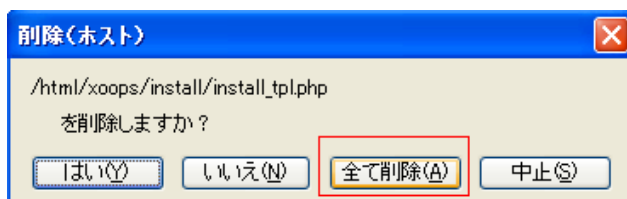
右部に「install」ディレクトリがあることを確認してください。



「install」ディレクトリを右クリックし、「削除」をクリックします。



ダイアログが表示されるので、「全て削除」をクリックしてフォルダを削除してください。



■ 表示の確認

「install」ディレクトリを削除したら、ブラウザでアクセスして確認しましょう。

「[http://あなたのURL\(ドメイン名\)/xoops/](http://あなたのURL(ドメイン名)/xoops/)」にアクセスしてください。

下図のように無事表示されていることが確認できましたら、画面右側の「管理者メニュー」をクリックしてください。



画面中央に下図のような注意が出ています。

注意書きの通りに設定を行きましょう。

✘ 注意: PHPの設定環境の中で、"register_globals" が "on"になっています。(サイトの脆弱につながる危険性があります。)

✘ 注意: ファイル/usr/home/g601025/html/xoops/mainfile.phpへの書き込みが可能となっています。このファイルのパーミッション設定を変更してください。

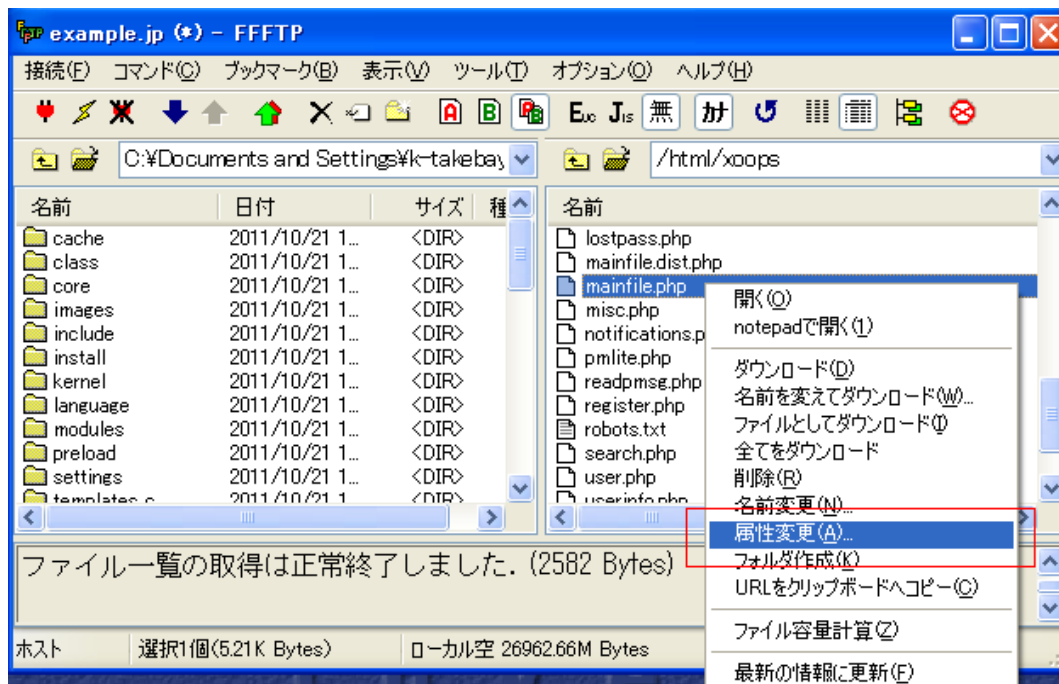
■ 「manfile.php」のパーミッション変更

FTPソフトでサーバーに接続します。

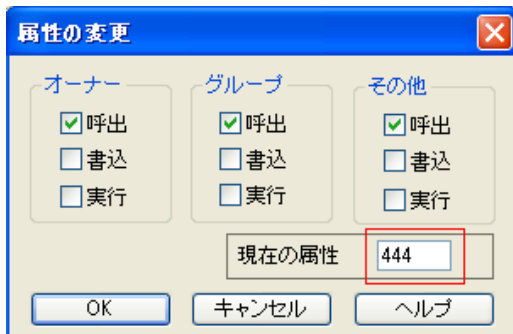
「接続」をクリックしてください。



右部の「mainfile.php」を右クリックし、「属性変更」をクリックしてください。



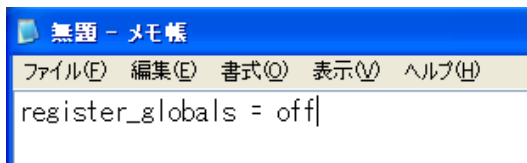
「現在の属性」を「444」に変更し「OK」をクリックしてください。



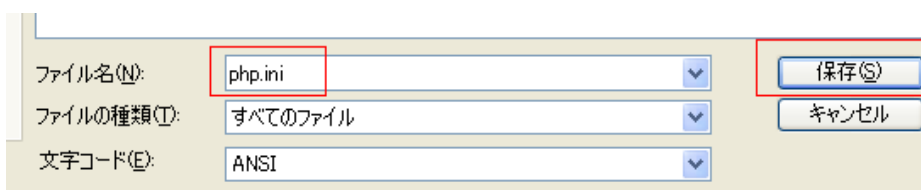
■ 「php.ini」の作成

テキストエディタを起動し、下記を記述します。

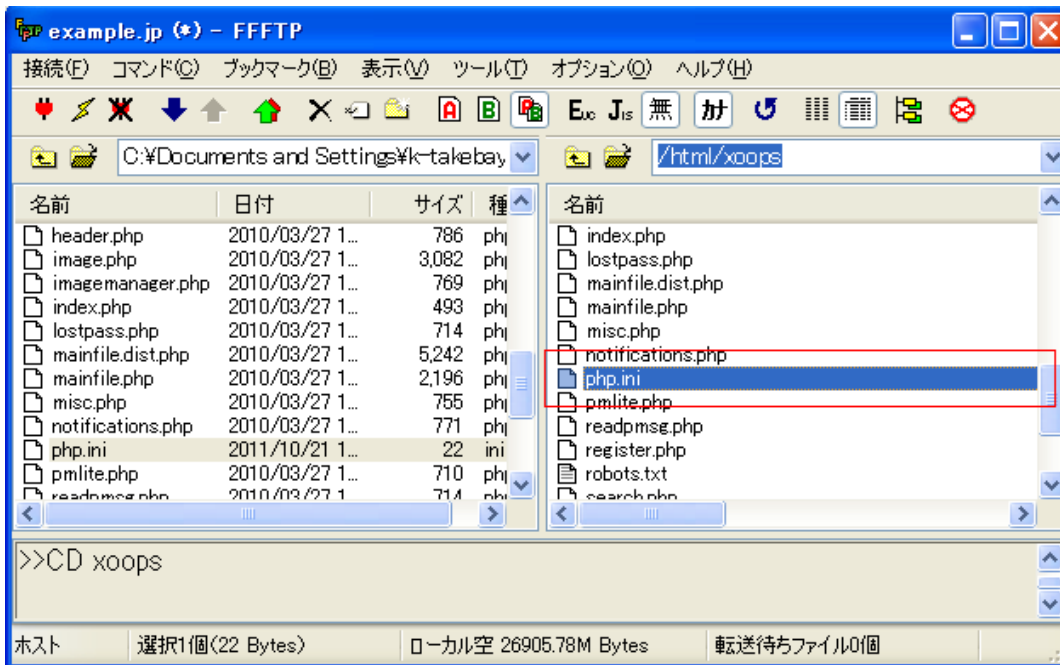
```
register_globals = off
```



「php.ini」というファイル名で保存します。



FTP ソフトを起動し、左部に「php.ini」を保存したフォルダ、右部に「xoops」ディレクトリを表示し、「php.ini」ファイルをアップロードしてください。



「[http://あなたのURL\(ドメイン名\)/xoops/](http://あなたのURL(ドメイン名)/xoops/)」にアクセスし、「管理者メニュー」をクリックします。注意書きが消えていたら設定は完了です。



以上で、XOOPS のインストールは完了です。